

船舶事故調査報告書

令和3年10月6日

運輸安全委員会（海事専門部会）議決

委員 佐藤 雄二（部会長）

委員 田村 兼吉

委員 岡本 満喜子

事故種類	転覆
発生日時	令和2年11月23日 15時00分ごろ
発生場所	千葉県鋸南町保田漁港西北西方沖 保田港防波堤灯台から真方位277°940m付近 (概位 北緯35°08.0′ 東経139°49.5′)
事故の概要	プレジャーボート幸昇汰丸は、漂流中、左舷船尾部に高波が打ち込んで水船状態となり、転覆した。 幸昇汰丸は、船長が低体温症を負い、船外機に濡損を生じた。
事故調査の経過	令和2年12月11日、本事故の調査を担当する主管調査官（横浜事務所）ほか1人の地方事故調査官を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等 L×B×D、船質 機関、出力、進水等	プレジャーボート 幸昇汰丸、0.4トン 第250-45580号（船舶検査済票の番号）、個人所有 2.23 (Lr) m×1.88m×0.54m、FRP ガソリン機関、2.9kW、平成12年5月
乗組員等に関する情報	船長 63歳 二級小型船舶操縦士・特殊小型船舶操縦士・特定 免許登録日 平成6年6月10日 免許証交付日 平成31年4月22日 (令和6年6月9日まで有効)
死傷者等	軽傷 1人（船長）
損傷	船外機に濡損（水没）
気象・海象	気象：天気 曇り、風向 南、風速 約6m/s、最大瞬間風速 約9～10m/s、視界 良好 海象：波向 南、波高 約2.0m、潮汐 下げ潮の中央期、水温 約17℃ 鋸南町には、令和2年11月22日16時06分に強風波浪注意報が発表され、本事故時も発表中であった。
事故の経過	本船は、船長が1人で乗り組み、釣りの目的で、令和2年11月23日11時00分ごろ保田漁港西方沖に設置された定置網付近の釣り場に向けて同漁港を出港した。 船長は、釣り場に到着した後、本船が船首を西方（沖側）に向けて

	<p>漂泊しながら釣りを行っていたところ、左舷方から風を受けて徐々に風波が強くなってきたので帰港することとした。</p> <p>船長は、本船が定置網の垣網付近に近づいていたことに気付き、オールを漕いで同垣網付近から離れた。</p> <p>本船は、船長が船尾で船外機を始動して中立運転としたところ、南方からの高波が左舷船尾部に打ち込んで水船状態となり、その後船体のバランスが崩れ、左舷側に転覆した。</p> <p>船長は、定置網のロープに^{つか}掴まって付近航行中の船舶等の救助を待っていたが船がないので岸近くまで延びた同ロープに伝わって移動したのち泳いで岸に向かい、途中、漂流していたところ、付近を通りかかる漁船が見え、救命胴衣付属の笛を吹いた。</p> <p>船長は、笛の音に気付いた漁船に救助されて保田漁港に帰着した。</p> <p>船長を救助した漁船は119番に通報し、救急車の要請を受けた消防指令センターが海上保安庁に本事故の発生を通報した。</p> <p>船長は、鋸南町所在の消防隊により同町所在の病院に搬送され、低体温症と診断された。</p> <p>本船は、定置網に漂着し、離脱できない状態となった。</p> <p>本船は、後日、定置網を管轄する漁業協同組合の船によって回収された。</p> <p>(付図1 事故発生場所概略図 参照)</p>
<p>その他の事項</p>	<p>本船の乾舷は、船首が約30cm、船尾が約20cmであった。</p> <p>船長は、定置網の垣網に引っ掛かりそうになり、オールを漕いで移動した後、主機を始動して中立運転としたものの、直後に高波が打ち込んで瞬時に転覆したと本事故後に思った。</p> <p>船長は、救命胴衣を着用していた。</p>
<p>分析</p> <p>乗組員等の関与</p> <p>船体・機関等の関与</p> <p>気象・海象等の関与</p> <p>判明した事項の解析</p>	<p>あり</p> <p>なし</p> <p>あり</p> <p>本船は、強風波浪注意報が発表された状況下、保田漁港西北西方沖において船首を西方に向けて南風を左舷側に受けて漂泊中、船長が風速約6m/sを越える風及び波高約2mの高波の中で漂泊を続けたことから、高波が左舷船尾部に打ち込んで水船状態となり、船体のバランスを崩して左舷側に転覆したものと考えられる。</p>
<p>原因</p>	<p>本事故は、強風波浪注意報が発表された状況下、本船が、保田漁港西北西方沖において船首を西方に向けて南風を左舷側に受けて漂泊中、船長が風速約6m/sを越える風及び波高約2mの高波の中で漂泊を続けたため、高波が左舷船尾部に打ち込んで水船状態となり、船体のバランスを崩して左舷側に転覆したものと考えられる。</p>
<p>再発防止策</p>	<p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考え</p>

	<p>られる。</p> <ul style="list-style-type: none">・ 船長は、漂泊中、風が強くなる兆候を感じた場合、波が高くなる前に早めに帰港すること。・ 船長は、出港前に気象情報等を適切に入手して把握し、強風波浪注意報が発表され、波が高くなることが予想される場合、出航を控えること。
--	--

付図1 事故発生場所概略図

